

滑り台

楊楚豪

雪が降り注いでいた

子供の心に深く刻まれる一瞬が訪れた

滑り台の頂で立ちすくんでいた

初めての雪が降り積もる中

白が新しい世界を告げる

家の中で両親が麻雀に興じる音が遠く

静けさが雪の中へと誘う

滑り降りる勇気を持てず

見守るばかりだった

足元が滑り

冷たさの中で

奥深くに残る記憶となる

滑り台のように立ちすくむ影たち

LGBTの友人たちは

その姿を隠しながら

雪の中で一步を踏み出す勇気を見せている

それぞれの足跡が、雪の中に淡く残り

進む道のりが

深い静けさに包まれながら

ゆっくりと織り成されていく

一緒にあの雪の日に戻り

すべてのラベルを取り払い

ただの友人として

滑り台を共に滑り降り

安定して地面に着地する